

海航の大難苦 艦隊のつろい

かとり新聞 特集号

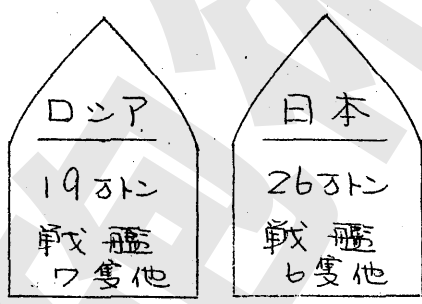
本年度遠洋航海は、総航程三六〇〇海里、一五五日に及び海上自衛隊としては最大規模の航海であるが、今を去る七〇年前、総航程一〇八〇〇海里、二三日にわたる大航海を行なった艦隊がある。俗に「バルチック艦隊」といわれるロシア第二太平洋艦隊である。私がこの艦隊のことを紹介したいのは、第一に「バルチック艦隊」のことは、日本の歴史上極めて重大なことがあるのに日本ではあまり話されないが、諸外国の海軍、特にトルコ等では非常に熱心に研究されているということを知っているからであり、第二にはこの艦隊のコースと同じようなコースを我々も帰りに辿るといふことからである。

さき、話の順序として何故ロシア艦隊を回航させたか、ということから始める。

一九〇四年二月十日、日露戦争は始められた。戦争の原因については(私見であるが)「暖かい不凍港を求め南進を続けたロシア勢力に、当時の日本が独立の危険を感じ、防衛のため武器をとって立ち上った」といふものである。

この西勢力が、開戦後六ヶ月多くの海戦を経て、日本は戦艦二隻を失い、ロシアは戦艦二隻の他巡洋艦を一隻、中一〇隻も失ない、旅順及びウラジオストフクの軍港の中に閉込めらるるといふ状況に追い込まれた。

蛇足であるが、日本の失った戦艦二隻は機雷に触れて沈んだものである。日本近海の制海権は



開戦時のアジアにおける両海軍の勢力は次のとおりであった。

完全に日本の手に帰したわけであり、戦局はロシア側に不利で、当時イギリス、フランスに次ぐ世界第三位の海軍国であったロシア海軍としまは、その榮譽にかけても日本海軍を正戦し戦局の好転をはからねばならなかった。このため各地の海軍工廠と造船所を多くの艦艇を新造、あるいは諸外国から購入する等して戦力の増強をはかっていたが、九月五日新たに第二太平洋艦隊を編成し、司令長官にロジェストヴェネスキ中将を任命した。

この陣容は新鋭戦艦五隻を含む戦艦七隻、巡洋艦六隻を主とした艦力を長駆ウラジオストフクに進出させ、そこを基地として東洋の制海権を奪取し日本の大陸に打つ補給路を遮断するという計画であ

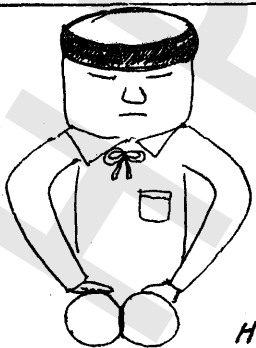
苦しみによって得た体験はその人の一生の宝である

った。もしも、この作戦が成功したなら滿州が活躍中の日本陸軍は完全に孤立し、勝敗は疑問の余地のないものとなるという作戦であった。

また、当時旅順、ウラジオに閉込められていた艦隊も新鋭艦隊の増援を得た若動を始めるとは当然であるし、日本全体がバルチック艦隊の編成を知ったるに、さき、この艦隊の回航に当ってロシアが一番苦心したことは「燃料」と「人」であった。「燃料」は本年度遠航において最大関心事であるが、バルチック艦隊にとつては本年度遠航の何百倍という困難であった。必要量は二四万トンのしか、大部分が日本の同盟国イギリスの勢力範

お詫び

- ★四号一面の表紙表一〇〇メートルを「〇〇〇メートル」に。
- ★ひた走るマントに高く天の川の作者表紙表を「海野一雷」に。
- ★三画、テニウリ同行記の「OAMES」を「DAMES」に。
- ★五画、コウの使用(〇)の玉の(一)一枚を「一枚、一枚」に。
- ★八画、下段の人生は常にみちみちるを「人生は常に可能性にみちみちる」に。
- ★十画、二段、ヒューマンリビとツグダより(き)を生捕りたことツグダより「に」を以て訂正しやせました。



HT

血気にはやまの
一、二日アフリカのダ
ンジールに入港した。
こゝはロシアの同盟
国フランス領であり、
歓迎行事も行なわれ、
ようやく乗員の士気は
回復補給も順調に行な
われた。

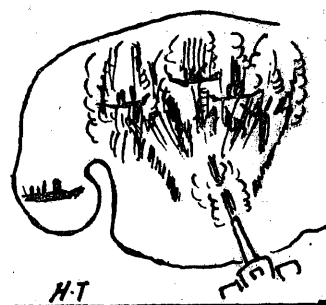
十一月四日艦隊を二
分し、戦艦二隻、巡洋
艦三隻、駆逐艦七隻を
次席指揮官フエリケリ
ガム少将に委せ、スエ
ズを経東航させ主隊
は長官直率しアフリカ
のダカールに向った。
アフリカ西岸に沿い
南下を始めると過度は
急激に高まり、北回製
の軍艦はむし風呂と化
し、日射病で倒れるも
のが続出したという。
十一月十二日ダカール
に入港したが、こゝに
はフランス領にもかか
り、港内での補給を
禁止されたが、背に腹
を変えられぬ艦隊はフ
ランス官憲の目を盗ん
で、港内において商船
からの石炭、真水補給
を強行した。
十一月十六日ダカール

ル発、本國出港一ヶ月
目のこの頃から機関の
故障が続出し、艦隊の
S.O.Bはとみに低下し
た。

十一月二十六日ガブ
ーン河口に仮泊し、石
炭船からの補給を実施
。規律もゆるみはじめ
。この仮泊地では士官三
名が病院船の看護婦の
所へ忍び込み、軍法会
議にかけられぬという。



十一月三十日仮泊地
を、十二月二日赤道通
過。こゝでは船乗りの
慣習どおり赤道祭を行
なつてゐる。
十二月五日ポルトガ
ル領グレートフイニン
ベイ湾に仮泊したが、
中立違反を恐れたポル
トガル政府から二十四
時間以内に出去するよ
う要求された。
さうして、この辺を目
東洋に転じてみる。



ロシア極東艦隊の主
力は旅順に逃げこんで
いるというこゝを前に
話したが、旅順港は堅
固な要塞に守られ海上
からこの軍艦を攻撃す
ることにはできない。
日本海軍は陸軍に対
し、旅順港を見下す高
地(二〇三高地)を占領
し、その山頂から港内の
軍艦を撃沈するよう要
請。陸軍もこゝを了承
したのであるが、東京
の本軍艦隊と実際の
の攻撃を支持した日本
第三軍の間で目的がく
い違つてゐた。

東京は海軍の要求ど
おり「港内を見下す高
地の占領」を意図した
のであるが、乃木軍は
「旅順の陸軍要塞を占
領し、次いで高地の確
保」をはかつた。
この要塞は、当時世
界一をうたわれたもの

で、守るは名将ステッ
セル將軍であり、八月
から三ヶ月にわたる猛
攻にもびつともしなかつ
た。たゞりかねた満
州軍総参謀長の児玉大
將は自ら旅順に進出、
乃木大將の指揮権を一
時とりあげるというよ
うな非常手段までとつ
た。ようやく十二月五
日二〇三高地を占領、
山頂に海軍砲を据え、
港内の軍艦を狙い打ち
し、戦艦四隻、巡洋艦
二隻を撃沈したが戦艦
一隻は山陰に隠れ、山
頂からの砲撃は届かず
海上からの水雷機攻撃
により撃沈してゐる。

こゝで日本艦隊は旅
順の封鎖を解き、山陰
の母港に帰還、整備
休養にあたることとな
る。
バルチック艦隊は十
二月十九日アフリカ南
端、喜望峯を通過印度
洋に入った。この頃、
旅順占領、ロシア極東
艦隊全滅の報はバルチ
ック艦隊にもどどき、
バルチック艦隊が東進
を続けるのか否かとい
うことは世界の関心事

であると共に、バルチ
ック艦隊乗組将士の関
心の的だったが、日本
との交戦が続けようと
するロシアに艦隊東進
を断念する気のあるは
かばなく、皇帝は第三
太平洋艦隊(戦艦一隻
他)を編成してバルチ
ック艦隊を増援させる
ことによりあくまで東
進を命じた。

十二月二十九日マダ
ガスカルに到着したが
マダガスカルはデイエ
ゴスワレズ入港を拒否
してゐる。やむなく艦
隊はマダガスカル西岸
の田舎町、ノンベ湾に
投錨。こゝでタンジール
で分離したフエリケリ
ガム少将の支隊と合
同した。長官は急ぎ東
洋に進軍するという固い
意志を有してゐたが、
機関の故障続出、石炭
船の同行拒否等相次ぎ
さらに皇帝から、ロッ
ア第三太平洋艦隊をノ
ンベ湾待たせよと命令
されてゐる始末。
一月の南洋球は真夏
であり、四〇度以上
の暑さか士気沈滞、一
隻の運送船では下士官
の反乱が起つてゐる。

一月中旬から出動訓
練を始め、又本國から
の手紙が届いたことに
より士気も若干向上し
たが一時の現象にすぎ
ず、野菜、水の欠乏は
いよいよ士気低下に拍
車をかけ二〇名近くの
ものが発狂してゐる。
坂の上の雲には、あ
る水兵が「この南海の
星の教と位置とをこゝ
ごとく覚えた。我々は
さしほどは退屈である
と、故郷へ書き送つた
とあるが、いつ投錨し
て極東に向かうのが自
らの行先を知らない日
常ほどどうしようもな
いものはないだろう。

バルチック艦隊一
三千の乗員が、ノンベ
湾前途への不安にさい
なされてゐた二月二十
一日母港への整備と休
養を終えた日本艦隊は
鎮海湾に集結。こゝで
猛訓練が始まる。最近
はこの猛訓練は全く非
科学的のもので、とい
うような批判もあるよ
うであるが、平素の一
年間に使用する訓練弾
を十日で消耗するほど
の猛訓練であつた。

二月二十七日に
は、出羽中將が司
令官となり千歳(四
四七〇〇ト)を配置(四
九〇〇ト)他を幸い、
シンがポール方面を
威と情報収集の目的を
もって行動、四月一日
に帰投してゐる。

三月十日には満州の
野が奉天大会戦が行な
われ、大島将軍以下の
二五五の日本軍がクロ
パトキン将軍率いる三
二五のロシア軍を打破
つてゐる。

三月十七日に至リノ
ンベに滞留を続けたバ
ルチック艦隊は、来着
したドイツ補給艦隊が
らの物資を満載し、ノ
ンベを出発した。ロッ
アの軍艦はただぎさえ
重砲が高いといわゆる
のに、このときも物資
をとり載しすぎ復原性
を非常に悪くした艦が
多かつた。このときも
兵力は戦艦七、巡洋艦
一三、駆逐艦九他、計
四三隻であつた。

洋上を石炭船から石炭
とう載のため停止をし
てゐる。

四月八日マラッカ通
峽、シンがポール沖を
堂々と進むバルチック
艦隊の偉容は見る者に
息を呑ませるにふさわ
しいものであつたとい
えよう。それまで日本
艦隊の勝利に樂觀的だ
つた英米の専門家の意
見も次第に悲觀論に傾
いてきた。

四月十四日インドシ
ナ半島のカムラン灣着
。フランスは中立堅持
の立場から退去を要求
したが、バルチック艦
隊は同湾を出たり入り
たりしてごまかしてゐ
た。

歴史小説

決定判!

著名な歴史小説家K
氏(かとり乗組)が

読者をおどらせたい軽
妙なタツテで書きあげ
た歴史小説「バルチッ
ク艦隊」を本号から二
回にわたり連載します
。これは、今回わが練
習艦隊が地中海以後、
バルチック艦隊とほぼ
同じコースを通ること
から、特に着者がか
り新聞に寄稿されたも
のです。SOM4ノッ

日露海戦の(毎日新聞) 教訓 編集室

レニングラードのネ
バ川に浮かぶ巡洋艦「
オーローラ」は、五十余
年前この艦の六インチ
砲の二発を合図に「十
月革命」の幕が切つた
落とされたというロシ
ア革命史に欠かせない
軍艦である。一九〇五
年五月、ロシアエスト
ラに属したバルチック艦
隊に属して日本海海戦に
参加した艦でもある。

この「オーローラ」は
打撃中壊滅したロシア
海軍の中で、わが

トのOFと8ノットの
バルチック艦隊とを比
較しながら読んでみる
と興味深いでしょう。
次号では、著者の筆
致がいよいよさへ渡り
ライマックスが展開さ
れます。さう御期待し
てください。

に生き残ったものの一
隻といわれているが、
今は栄光の革命記念艦
とつて、世界中の人
々が見守りに誇りに
なつてゐるといふ。こ
が輝く勝利を記念する
東郷司令長官の旗艦「
三丑」の場合、肝心



の日本人の思い出から
日々遠ざかつてゐるよ
うに感じられる。
運命の皮肉といえ
ば、大艦巨砲主義の
は、大艦巨砲主義の
は、大艦巨砲主義の
は、大艦巨砲主義の

予備知識を忘れるな
ガイドブック等沢山
買ひ込んで持つてゐる
人は事前に調べれば必
ず個々のメモをしてお
く(もうやってみるま
か?)。歴史と伝統が大
きな観光資源となつて

いるヨーロッパにおい
ては、由緒ある建物の
由来やエピソードを調
べなければ、寄港地で
実際に見る風景もひと
しおの感があるとい
うものである。また
歴史も予備知識として
身につけておくことが
必らず収穫の多い外国
訪問になるのだから、遠
航のシオリ、訪問国参考
資料、かとりあおくも
新聞を熟読し、寄港地
講話を聞けば、昭和四
十九年度世界一周(十
ニヶ国訪問)遠洋航海
も実り多い思い出と思
います。

旅の記録のツツ

詳細な日記をつける
ことは帰国後良い資料
になるし、わけがえの
ない思い出の記録とな
る。毎日ゆつくり思
出して整理して綴るこ
とも大変だし、一二年
の日記ではなんにも
ならない。売子の面白
い呼び声とか、メニ
ューの一部、信号が長
いとか、チップをやつ
たら喜んでとか

個性を生かす服装

色彩のはややかなヨーロッパの街は、世界各国から来た観光客がそれぞれの好みに応じた服装を楽しんでいる。彼等の着こなしは、よく、また色彩も豊かである。西洋人は一般に耳をとりどりに、手首の色を好むようだ。ヨーロッパで、集団で思っばい群れがやってくると思ふと必ず日本人観光客の団体とかが、西洋ではボロや汚いではないが、非難されない。特に女性など流行に感化され、ちよっとしたアイディアをとり入れお互いにオーバードレスする。あるファッションの学生が、日本人の学生が、主眼が他人の家を訪問するとき、これをアイロン

くだらないことをしつぱしからメモして、後で整理すると貴重な資料となる。

ズボンとすじをつけ、マ行くというくらい着ているもの自体には、あれこれ非難されないということがある。

レディーファストは海外だけの日本男児

元来、日本の男はむっつり、いばつまっているのが男性的であるが、海外に行くときも男性的じゃなくなってしまう。あれこれ世話をやいたり、ジュークが上手だったり、女をいささせたり、おしよいといたった感じである。ある日本人が、外人の女性と同居したとき、あれこれ細やかなサービスをする商社マンと、もう一人の日本人は、俺は、サムライだか



HT

女性にモテる心得

静かに、溶けるように彼女の美しさをほめろ。切ない自分の想いをギターをかなでるようにかき口説いたら、甘いムードの好きなヨーロッパ女性も、ロンドンと違っている。会話にハンデがある。我々には無理な話だが、どこぞで我々にできることは女性の前でエチケットを守ること。ヨーロッパの男性が習慣として無意識にやってくる女性へのエチケット。

静かに、溶けるように彼女の美しさをほめろ。切ない自分の想いをギターをかなでるようにかき口説いたら、甘いムードの好きなヨーロッパ女性も、ロンドンと違っている。会話にハンデがある。我々には無理な話だが、どこぞで我々にできることは女性の前でエチケットを守ること。ヨーロッパの男性が習慣として無意識にやってくる女性へのエチケット。

冷たい日本人同志

海外で出会う日本人との接触で、嫌な思いをするのに、冷血な視線を浴びることがある。我々は馴れているにしても、海外で同国人に逢ったという連帯意識は生まれないらしい。



ヨーロッパは何百年間あたり前になつて習慣化している国である。チップを上手に使うことが大切である。チップはホテルのボーイ、メイド、劇場案内人、給仕、床屋

シヤンパンには注意



一流レストランでは自分が勝手に席につくとボーイにいやら顔でいる。各席には担当のボーイが決まっています。そのボーイ以外サービスしないので、身柄は案内するボーイに任せろ。シヤンパンは中級クラスでも一本六千円(百フラン)ほる店では一本二三百フランは覚悟しなければならぬ。注文しないうのが無難である。

困った日本人の習性

食事や乗物で座席に腰を掛けるとき大股を開く。これは乗物なら二人分の席を占めることになり、嫌がられる。また、君達日本人の股についているのは、誤解されかねない。

| | タクシー | ホテル | レストラン | トイレ |
|------|--------------------|--------------------|----------------|-----------|
| イタリア | ① 15% ② 10時後30% | 1泊100円 | 15%サービス料含5% | 30~50円 |
| フランス | 10~15% | 1泊1750円を頼んだら31750円 | 料金の10~15%含まれる | 30フラン |
| スペイン | 10% | 1泊10ペセタ以上 | サービス料込みだが、15%位 | 4ペセタ |
| イギリス | 4ドリンクに1ドリンク | 15% | 料金の10~15% | 5ペンス~7ペンス |



衆物に乘るとき、道路の横断、日本では通勤時ほどよく見かけるが、ヨーロッパでは泥棒が追いかける人以外走らない。泥棒に間違えらるると困る。

走るな
さめるな
誤解を招く



（毒揚子）を使用し、口の掃除をするとき「シュー、シュー」チッチの坂引音は、欧米人にはむっとも嫌われるので注意。

また、女性との交際次第でお値段の方も違ってくるが、ポルノ雑誌を切り扱った四八手アルバムを持ち出し「もう少し出しませんか」とこの手で「サービス」か「こい」と、こいをミックスしてみたい。などと再交渉に乗り出して「あなだの言い値じゃこいだけ」ととげつりするような写真を見せられて情緒

日本の紳士は海外のプロ女性に比べて上客に入るとか。どの回でも一うらんど四〇〇〇円、二八〇〇〇円が原則だが、見事にこの相場をもち上げてしまおう。成金客が日本人ということも通っている。

ツークラック情報



欧米の公園などで、可愛い子供がいるからと抱きあげない方がいい。誘いかい意にされるから御注意。

★イギリス紳士のお囀柄とは裏腹に、ズバリのシヨロが楽しめる。ハロペンス(五百円)位は持込禁止のセックスブックもある。

★パリー最高のシヨロ一〇〇つう(六〇〇〇円)高級車を来る娼婦から街娼まで。

★イタリア、悪質サギポニビギ、ナイトつうづ

に欠けることおびたにしい。目鼻立ちを整っているレススタイル抜群。かなり厚化粧のオバサンだった。事柄を怠らぬ良かつたと胸を懐かおうすこともある。また中には高級車を来る高級娼婦もいるが、あなだの財布の中身も相当の高さが要求されるだろう。



昨年末の石油危機で日本観光客が、トイレトパーパーまで驚かされた。帰ってきたとマスコミが取り上げ、それが香港のシヨロピングセンター、ハワイシヨロリだが「〇〇観光団歓迎」のノーキー御一行様。当店日本語わかります。日本人イラジマイマセ。そして「ポルノアルヨ」「サイルヨ」などで、顔を立てたり、ターを先頭に、胸に同じ色のリボンをつけ、日本人団体観光客が道路一杯に右往左往し

旅の恥はかき捨てる
られない

(毎日から、編集室)

の不法強請者に注意。街娼もいる。

★バルセロナ、くだけた夜を楽しみたい。カウンターバーに美人がたむろし、三〇〇ペセタ(一五〇〇円)位で要求に忘れまくる。



WELL COME

「お帰り」

ていた。そして、それがいらいスキー、夕バコ、香水、民芸品から日用品まで多量に買いこむ。旅行に行っても名所や、その国の人々の生活を見ようと思せおシヨロピングに明け暮れる日本人は、急に経済不況になつた物を買いあさる因合者ぞと、特にヨーロッパ人は陰で冷笑している。シヨロピングがアメリカに如え、海外で日本人の評判を悪くしているものはそのセックスアニマルぶりとか。ヨーロッパのポルノ劇場やフィルム、雑誌店は、ほとんど日本人客がいっぱいだ。ある国の人が「日本人は困るよ、食べるのも団体買物も団体、そして女買うのも団体だから」と、確かに旅は開放的

にさせる。異国でのロマンスも旅の楽しさの一つに違いない。しかしそれはあくまで個人の心の思い出しとしてしまつておくと、旅の美しさがなくなる。果して日本の男性はそんなにスウベなのだろうか？ そんなに日本女性に欲求不満なのだろうか？ あるいは悪質観光業者や無責任なマスコミに踊らされてるお人よしなのだろうか？ とにかく火のない所に煙は立たない。昨年の東南アジアでの反日感情も、こうした観光シヨロピング、アニマルセックスが原因の一つになつているのは間違いない。昼はシヨロピング、夜は女に明け暮れるような海外旅行を、よく考えよ。好機だと思ふ。少なくとも旅行する国の歴史や簡単な日常会話、生活習慣など勉強し、そこに生活する人々との交流をもちたいという気持ちをもつて旅をしてみたいと思ふ。

編集室